

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391300151		
法人名	株式会社ラディカ		
事業所名	グループホームフォーシーズン		
所在地	熊本県宇城市松橋町久具2059-1		
自己評価作成日	令和5年7月20日	評価結果市町村受理日	令和5年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居時より、一人ひとりの生活歴や背景を知ることによってその方の『今』に寄り添った生活が送れるとことを大切にしています。日常生活の中でも出来る事を活かし、入居者様それぞれのやりがいや楽しみに繋がる取り組みをミーティングで話し合い、常に職員全員で寄り添った支援を心掛けています。コロナ禍以降、ご家族とのコミュニケーションもSNSを活用し、遠方のご家族へも日常風景やイベントの写真など情報を発信、共有しやすくなりました。今年度は数年の間出来ていなかった温泉旅行や、誕生日ランチなどの外出行事を取り入れていきたいと考えています。年々平均年齢や介護度も上がり、看取りの対応も増えています。職員皆で同じ目標に向かって取り組めるよう、事業所内で勉強会を開催したり、外部研修で得た知識を共有し、認知症の理解を深め、入居者様が充実した日常が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者が自分らしく生きられるようにとテーマを決めたレク体操(音楽体操・脳トレ・転倒予防等)によりレベル低下防止に努め、入居者個々のバックグラウンドの把握及び受容・聴く姿勢が入居者の思いを引き出し、誕生日の温泉施設利用等により思いを実現させる他、職員は楽しんでもらおうと工夫した日常を支援している。理念として掲げる“いま”“この時”を実現するために以前から積極的に外出を支援してきた経緯があり、閉じこもりがちな数年間から少人数での外出等できる事から再始動させている。理念の実現の他、年間目標の3項目(認知症を正しく理解することやレクの充実、笑顔を持ったケアなど)の実践に計画性を持たせ、コロナ禍の体験もスキルアップや意思の統一として生かされている。運営推進会議等が地域との接点として生かされ、地域との繋がりを更に強固なものとされることと大いに期待したいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関と職員休憩室2箇所に掲示している。毎年職員で話し合いを行い、会社理念や事業所の特性を念頭に自事業所目標を設定している。目標達成に向け、日々職員間で意識の共有をしながら取り組んでいる。	『一人ひとりの歩みを大切に、一人ひとりの今、この時に寄り添います。』とする理念のもと、掲示や日々のミーティング等により継続的に意識付けを行っている。ホームとして年間目標の3項目の実践に計画性を持たせ、進捗状況を見極める等共通認識を持ったケアに取り組んでいる。コロナ禍を体験したことが職員のスキルアップや意識の統一として生かされ、利用者が自分らしく生きられるように“今”に注視したケアの実践に生かすとともに、何をすべきかを念頭に置きながら理念の実践に努めるホームである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	活動内容を添えたフォーシーズン便りを毎月発行し、地域の回覧板で掲示している。地域の行事に可能な限り参加、ボランティアの活用を通じ地域との関係が途切れない様にしている。	毎月のフォーシーズン便りの回覧により情報を発信し続けることで、地域住民との交流に制約がある中でも、だんどや・生き生きサロン・敬老会等の地域からのお誘いを受けている。傾聴ボランティアやマッサージボランティア等も受け入れていたが、ホームとして地域にできる事などをリサーチすることで地域との繋がり強化に努める事や、開所10周年に向け地域住民への声掛け等今後に向け進行中である。	コロナ禍では出来なかった地域との交流再開に動き出されている。次のステップに向けた取り組みに大いに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に区長や民生委員の方々に参加して頂き認知症の方への理解と支援方法を説明し、地域で困っている人はいないか情報交換を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し入居者様の日頃の様子や生活状況を報告し、現在抱えている問題などにも参加者から助言や意見を頂きながらサービス提供の参考にさせていただいている。	運営推進会議は行政、家族代表、区長や民生委員、地域代表や系列の地域密着型事業所合同で開催。資料による報告とともに、活動に関する評価や要望・要望等を聴集する機会としている。委員へホームから資料を持ち届けることで、対面での質問や意見が出されたり、今年9月には消防訓練を組み合わせ、立ち会われた行政からの評価を受ける等意義ある会議となっている。	地域からの参加も多く、地域の問題提起の場として地域の課題等や、地域との関係性強化に繋がるよう議題を提示しながらの話し合い等、今後の運営推進会議が更に充実されることを期待したい。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とも定期的に連絡を取っている。地域密着型サービス連絡会に参加し、疑問や日頃のケアについての相談を行う事で協力関係を築ける様に取り組んでいる。	運営推進会議参加時の情報交換や、担当者と直接コンタクトを取り医療費問題の不明な点を気軽に尋ねる等協力関係を築き、会議や研修の場（地域密着型サービス連絡会等）でも意見交換を行っている。地域包括支援センター主催のズームでの研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の参加や、法人内で身体拘束廃止委員会を中心に法人内で勉強会を開催、参加者は全体へ周知・共有している。職員が正しい知識を身に付け、業務で実践できるように努めている。	法人合同の身体拘束廃止委員会での各部署の課題の話し合いや研修、毎月の勉強会等によりグレーゾーン等を検討している。入居者の外出傾向・夕方や夕食時等行動パターンを把握し、職員と一緒に外に出てみる等個別に対応している。入居当初は「帰る」との思いも見られたようであるが、現在は全般的に穏やかで、落ち着いて生活をされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での勉強会を通して、日頃のケアの見直し、また、不適切なケアがないかをミーティング内で話し合い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」制度について外部研修や法人内勉強会を開催。権利擁護が必要な方には職員間で話し合い、ご利用者のご家族に制度の説明を行うことを心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際は、ご本人、ご家族に分かりやすい言葉で伝え、丁寧な説明を心掛けている。疑問や質問、困っていることは無いか尋ね納得して頂けるように努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段よりご家族へは面会時や電話連絡を通して不安や疑問など意見を求めている。ご利用者やご家族からの意見、要望はその都度職員間で話し合い、可能な限りケアの実践に取り組んでいる。	家族へのフォーシーズン便りやライン、電話等を情報発信源としている。テラスを活用し面会や時間制限による対面、居室への入室等コロナ感染症の状況により随時見直しながら家族の意見や要望を収集している。家族からの申し出は苦情相談簿への記録と職員間での話し合いとともにその都度家族へ説明する体制としている。また、家族会を再開し家族との話し合う機会を作り、家族によっては家族会にズームでの参加される等問題提起や情報発信の場としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談を通し、職員からの意見や提案を管理者は週1回の管理者会議にて報告している。会議内容を職員へ伝えミーティング時に反映させている。	毎日のミーティングにより職員の意見等を収集、特にラインワークスを活用したことが職員間のコミュニケーション強化に生かされている。毎週の管理者会議により日々の職員の意見や提案を検討する他、経営状況等を知る機会として、全職員の共有事案としている。管理者からの職員への声かけや、リーダーによる面談により意見の聞き取りや個人目標の進捗状況などを話し合う機会としている。法人としてステップアップに向けた研修の推奨等、産休、パートから常勤へと選択する機会もあり、退職者も少なく働きやすい環境が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のライフスタイルや資格、経験を考慮し個人の年間目標を設定している。2ヶ月毎の面談を通して本人の仕事に対する意向や思いを引き出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のスタッフ勉強会を開催し職員に可能な限り出席を促している。外部研修や勉強会の案内も全職員へ周知している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区グループホーム連絡会や地域密着型連絡協議会に出席。勉強会や研修会を通じて情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活歴や入居後の本人やご家族の要望など情報収集し、入居後も安心した生活を送って頂けるように良好な関係作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍でもあり、入居時には内観や普段の様子を写真にて案内。ご家族の本人に対する気持ちや要望などを聞き取り、心配なことは丁寧に答えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人やご家族との担当者会議やカンファレンスを行い、本人や家族が必要とするサービスの導入を行えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活スタイルを大切にし、洗濯や食事の準備、片付けを一緒に行っている。「私がしましょうか？」と言葉を頂きながら、それぞれの出来る事を活かし共に協力して生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と電話やメールで情報を交換しながら、日常の様子も写真を活用しお伝えしている。本人に必要な日用品の買い物を依頼する事もあり面会の機会や、ご家族との関係が良好であるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあり参加は出来ていないが、地域の行事の案内を受けたり、ボランティア活動を取り入れ地域の方との交流支援に努めている。	家族、知人の訪問には工夫しながら対応し、携帯を持ち込み家族への頻繁な連絡、初詣や書き初め、七夕短冊作り(家族に会いたい、長生きしたい等思いが込められている)、受診時に自宅へ立ち寄る等家族の協力も得ながら馴染みの場所・人等との関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクレーションなどを通じて協力できる関係作り、日頃から利用者同士の交流の機会を作るように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や個別の事情などでサービス利用が終了した後もご家族と連絡を取り相談や支援ができる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活スタイルや趣味、嗜好品など本人の要望、希望に添えるように努めている。これまでの暮らし方や生活環境を聞き把握に努めている。	入居者の中には自分で意思を出される方や、カレンダーを見ると出かけたいという思いを発せられたり、自分の意思を出されない方などには入居者本人がどうしたいか等選択できるような声を掛ける等本人本位になるよう努めている。意思疎通の難しい入居者でも笑顔で返される等ニュアンスを把握し推察したり、時間がかかっても意思表示される場合もあるとして職員が待つ事を徹底している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃のコミュニケーションの中から、又はご家族との話を通じてこれまでの暮らし方や生活環境を情報収集、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化をケース記録に残し、一人ひとりの状態変化や環境変化は個人申し送りに記入。職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングで課題やケアのあり方検討し、計画作成担当者を中心にモニタリングを行い、本人、家族からの声を介護計画に反映させている。	職員の目標として毎月のモニタリングを挙げ、サービスや目標の達成度を見極めている。評価時に職員と話し合い、家族とケアマネジャーによる担当者会議により現在の様子を元に今後の生活について検討し新たなプランを作成している。看取り期には、苦痛無く出来る限り普段通り穏やかに過ごせる様な看取り介護計画表を作成している。家族も参加される担当者会議の他、遠方の家族へはケアマネジャーを通じて電話で話し合っており、家族の思いが反映されたプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に変化がみられた際は、詳しく記録し、ミーティングにて情報共有している。その結果も個別の申し送りを活用し周知、今後のケアの実践に向け取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃の生活や会話の中から求められるニーズを汲み取り、可能であるか話し合った中で実践できるように前向きに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外部との関わり少なかったが、今後は地域のいきいきサロンや傾聴ボランティア、などの地域資源を活用し参加を促していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医協力のもと、体調の変化や緊急時には、ご家族と連絡を取り、受診や往診にて対応している。事業所から利用者様の状態の報告や相談は日頃から行い、必要時情報提供書を通して連携を図っている。	定期的な受診や訪問診療にて入居者の医療を支えている。入居に際し、重度化した場合に備え、訪問診療の出来る医院の存在を説明しているが、家族の意向を優先している。家族による受診時には情報提供書により連携を図り、日々のバイタルチェックによる健康管理により、異常の早期発見に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から職員間で、ご利用者の体調や健康状態を共有している。気付きや体調の変化時には、看護師より主治医へ相談し、適切な指導や援助を受けられるよう連絡調整連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が定期的に面会し、状態の把握に努めている。担当看護師・相談員と連絡を取り、その都度主治医に報告しながら、いつでも退院ができるよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ご家族へ説明を行っている。また、事前指定書をご家族に記入して頂き、本人・ご家族の意向を知り、今後について話し合っている。必要時主治医からご家族への説明の機会を作っている。	入居時の説明で重度化や終末期に向けた方針を説明し、事前指定書により家族の意向を確認し、入居者の状態変化により段階的に主治医より説明されている。ホームを最終の場として看取りまでを希望される家族が大半であり、延命まで望まれる方も有り体調不良時及び半年毎に指定書を取り直している。開設時からの入居者の最期を看取り、家族との時間を確保しながら最終の場面を支援し、看取りを終えて職員へのアンケートによりケアを振り返っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を中心にミーティングの場を活用し、定期的に緊急時の対応の見直しや、発生時の対応を周知徹底させている。またAEDの使用法について勉強会で実技講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施。9月に予定している消防訓練には地域の方の参加も予定している。着手しているBCPを完成させ、スタッフへの周知、徹底を図る。	火災を想定した避難訓練を実施し、2階ユニットの入居者も階段を使って1階に降り訓練に参加されている。有事の際には法人内で連携を図るとして、何かあれば敷地内の他の施設から駆け付けける体制が取れている。備蓄はインスタント食等を確保し、定期的に見直しチェックする体制である。自然災害時には地域交流室を開放することとしている。	運営推進会議を活用した今回の避難訓練は、行政担当者にも実際の様子を確認してもらい機会として生かされている。今後、訓練実施に当り、回覧板を通じた地域への事前告知などを検討頂き、訓練を見てもらう事や避難の手伝い等、地域との連携を一層強固にされるよう期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傾聴、共感、一人ひとりに寄り添うケアを心掛けている。不適切な声掛けはないか職員同士で話し合いながら対応している。	理念に掲げる「今」「この時」に寄り添うケアを心がけ、入居者個々のこれまでの歩みを尊重している。トイレ誘導時の声かけや人前での言葉使い等ミーティング時に話し合い、排泄介助時のケア（ドアを開けたまま等）、職員同士が注意喚起し、職員個々が丁寧な言葉使いや優しい声かけに徹している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人の自己決定を尊重したケアを心掛けている。本人が選択できる声掛けや、思いを表現、発言できる環境作りをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で話し合いながら個々にあった計画を検討し、散歩や外出を個別に行い、一人ひとりのペースを大切にケアを心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時に必ず職員が身だしなみが整っているか確認している。入浴時や更衣の際は衣類を本人様と一緒に選んでいただいている。訪問美容でも好みの色やスタイルを伝えている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に行う昼食作りは、メニューから利用者様と共に考え取り組んでいる。週一回のおやつ作りも楽しみとなっている。普段より食事の準備や盛り付け、片付けなど、負担にならない程度職員と共に行っている。	食事は法人の厨房で作られているが、入居者の中には盛り付けや食器洗い等率先して関わる方もおられる。定期的に関催する食レクのメニューには入居者の声が反映され、男性職員の得意料理への挑戦は、入居者に好評を得ている。また、週に一回は手作りおやつの日を設けることで入居者も食へ関わる時間を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量が把握出来る様に毎食記録を残し、職員間で共有している。摂取が進まない時は高カロリーゼリーや、嗜好品を取り入れ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや、職員付き添いにて口腔ケアを実施。訪問歯科診療にてメンテナンスを希望されている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全利用者様に排泄チェックシートを活用し排泄時間や回数、排泄量の把握に務めている。一人ひとりの排泄パターンに合わせた誘導、排泄用品の使い分けを行っている。	排泄チェックシートに個別の時間や尿量などを記録し、声かけや誘導により日中は出来る限りトイレでの排泄を基本としている。入居者に無理がない程度に2人介助で支援する場合もある。夜間帯のオムツから、日中はリハビリパンツに切り替え、尿量に応じた排泄用品の使い分けにより、心地よい排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を確認し、摂取を促している。主治医より処方された薬の調整だけでなく、個々に合わせた自然排便に繋がる飲食物を選んで提供している。その他、毎日の体操や散歩等運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の間隔は職員で決めてはいるが、入浴日であっても本人の意向や時間の希望はその都度確認し、変更があれば臨機応変に対応している。入浴の希望があれば入浴日以外でも対応をしている。	入浴は週2回は入ってもらう事として状態を見ながら支援し、個別の希望には予定日以外でも入浴を支援したり、シャワー浴や部分浴等でも対応している。入居者の誕生日の希望に温泉施設を利用したケースや、入居者の馴染みとしてのしょうぶ湯等楽しみに繋がる様工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせ、休息、活動が出来る様に支援している。夜間は無理強いするような就寝が無いように努めている。穏やかな気分で眠りにつける様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬ケースに薬の説明書を貼り、職員が把握できるようにしている。薬の変更があれば個人申し送りに記入。状態変化時には主治医へ相談、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付けなど負担にならないように気をつけながら、職員と一緒にお手伝い頂いている。行事の飾りや物作り、司会や挨拶など、その方に合わせた役割をになって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や日光浴を積極的に取り入れている。日頃の会話やご家族様よりお話を頂き個別での外出支援も行っている。ご家族と受診時に自宅や買い物へ行かれる方もいる。	天気の良い日にはウッドデッキで草花を眺めたり、敷地内の散歩により外気浴を支援している。家族との受診も外出の機会として捉え、自宅へ立ち寄ったり、家族との買物等家族の協力を得ている。初詣やあじさい見学、マリーナまでのドライブ等少しずつ外出が増えており、「家に行きたい」の入居者の言葉に、職員が付添い、思いを実現させる等個別支援を充実させている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金をお預かりして管理している。利用者様にはお金を預かっていることを十分に説明し、買い物や必要時使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人への連絡は自由に出来る様にしている。ご家族やご友人からの電話やお手紙など、対応が難しい際は職員が間に入り、取次を行っている。携帯電話を使用している方もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や季節を感じるイベント事は関連する製作物や絵、言葉、歌を掲示している。共有スペースや玄関には季節の花を飾り、ウッドデッキにて花や野菜を育てている。	リビングを中心とした生活ではレクリエーション計画に沿って体操やウォーキング、脳トレ等に取り組み、家族からの提供された花や、庭に咲いた花を摘んではテーブルに飾る等季節感を醸した住空間である。ウッドデッキには入居者と一緒に花を植え、季節毎の制作物が共有空間を彩っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓辺のカウンター、廊下に椅子を置き、外を眺めたり、新聞を見たりと、一人での時間を過ごせるように工夫している。ウッドデッキやソファでくつろげるよう配置や雰囲気作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やご家族の写真など、お好きなものを飾られている。居心地よく、安心して過ごしていただけるように日頃から心地良い空間作りを心がけている。	入居に当り、これまで使い込まれた馴染みの品の必要性を説明しており、家族写真やカレンダー、ハンガーラック・衣装ケース・テレビ・仏壇等が持ち込まれている。コロナ感染症以前には来所した家族によりタンスの整理や衣替えを手伝われていた。各居室は入居者・家族の思いや状態に応じた部屋であり、落ち着いて安心した生活が出来る環境にある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は分かりやすい声掛けや、ケアの統一、自立に繋がる表示の工夫。一人ひとりに合わせた支援を行い、利用者様が自立し、安心した生活が送れるよう努力している。		